午一線、卯酉正圜、辰戌丑未棗核尖、寅申巳亥銀杏樣ト云、集解トハ小異アリ、凡猫晝眠ルモノハ夜善鼠ヲ捕フ、晝眠ラズシテ食ヲ求ルモノハ夜鼠ヲ捕ルコト能ハズ、俗ニノラヲコト云、徐氏筆精ニ、猫不捕鼠者名麒麟猫ト云、又俗ニ老猫尾岐ヲ成シ、人ヲ魅スルヲマタヲコト云説アリ、酉陽雜俎及月令廣義ニ、金華猫ヨク人ヲ妖スルコトヲ云ヘリ、金華ハ地名ナリ、集解ニ、貓死引竹ト云ハ、死猫ヲ竹林ノ邊ニ埋ムレバ、ソノ處ヘ竹生ジ來ルコトナリ、

〔倭訓栞前編ニ十二〕ねこ略○中　猫の眼は十二時にかはり、鼻は夏至の一日あたゝかも也といへり、

〔過庭紀談二〕世上ニ牡丹ノ下ニ猫ノ眠リ居ル圖ヲエガケル多シ、是亦彼圖ノ元來ノ起リニ相違セリ、彼圖ノ猫ハ睡ラスル筈ニテハ無シ、本右ノ圖ハ唐ノ時、或人サル能畫師ニ正午ノ牡丹ヲ圖シグレヨト賴ミシニ、右ノ畫師、牡丹ヲエガクハ易キコトナレドモ、日中正午ノ趣ヲイカヾシテ畫キ寫サンヤト、色々工夫ヲメグラシテ思ヒ付キ、牡丹ノ傍ニ猫ヲアシラヒ、其猫ノ眼ヲ正午ノ眼ニエガキテ、ソレニテ正午ノ牡丹ト云フ所ヲアラワセシナリ、左スレバ右ノ圖ノ猫ハ、眼コソ專一ノ主ナルニ、睡猫ニエガキテハ何ノ面白キコトモ無シ、

〔兎園小説三集〕むじなたぬき略○中

佛庵老人の云、日光鉢石町の人の話に、黑猫にも月の輪めきたるものありて、月の盈闕により、あるとなきとありとかたりしが、今熊の事につきて思ひ出だしぬとかたられき、

海棠庵

乙酉三月

美成云、右佛庵翁の黑猫と、熊と似たる話、世人のかつて云らざる事にて、いと珍らし、又猫と虎とは形狀もよく似て、歌にも猫を手がひの虎などよめり、云かるにその所爲も亦おなじき事あり、無寃錄卷下十二丁八云、虎咬死云々、一云、月初咬頭頂、月中咬腹脊、月盡咬足、猫咬鼠亦然、これらうきたることにあらず、奇といふべし、